

いま知る・いま備える 南海トラフ地震

【問い合わせ先】 危機管理課危機管理係（☎42・9111 内線1411）

南海トラフ地震とは

南海トラフ地震とは、太平洋沿岸にある南海トラフと呼ばれる海底の溝で発生が予測されている地震です。南海トラフでは、フィリピン海プレートという地盤が日本列島の下にある陸のプレートをゆっくりと押し込むエネルギーが長い年月をかけてたまり、それが一気に解放されることで地震が発生します。

過去には100～150年の間隔で繰り返し発生していることが分かっており、直近の南海トラフ地震は1946年の「昭和南海地震」とされています。国の想定によると、次に発生すれば広い範囲で強い揺れや大津波が発生するマグニチュード9クラスの巨大地震となるおそれがあります。最悪の場合、全国の死者は29万人以上となる、非常に深刻な被害が懸念されています。

南海トラフ地震臨時情報とは

昨年（令和6年）8月8日、宮崎県日向灘沖を震源としたマグニチュード7.1の地震が発生したことに伴い、初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。

南海トラフ地震臨時情報とは、南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合などに、気象庁から発表される情報です。気象庁でマグニチュード6.8以上の地震などの異常な現象を観測した場合、5～30分後に南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表されます。その後、専門家の調査結果を受けて発表される、「巨大地震警戒」「巨大地震注意」「調査終了」などのキーワードとともに、それに応じた防災対応が呼びかけられます。



詳細はこちら▲

発生確率

今後 **30** 年以内に **80** %程度



気象庁：南海トラフ地震について▲

奈良県の最大震度

震度 **6 強**



内閣府：南海トラフ地震防災対策▲

日頃から備えを

しかし、南海トラフ地震臨時情報は大規模地震の正確な発生時期を予知するものではありません。また、臨時情報がないまま大規模地震が発生する可能性もあります。だからこそ、日頃からの備えが何よりも大切です。

震度6強はどんな揺れ？

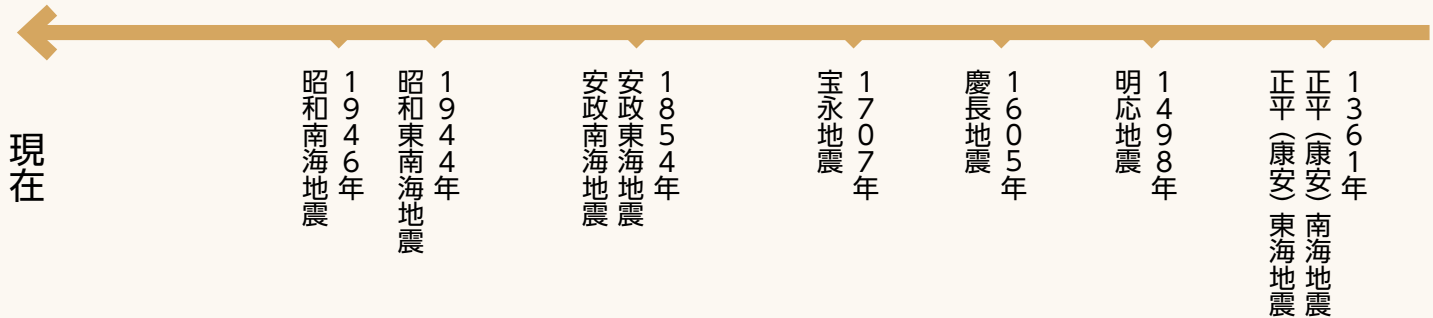
- はわなないと動くことができない
- 固定していない家具のほとんどが移動したり、倒れたりする
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる
- 地割れ・地滑り・山の斜面の崩壊が発生することがある
- 補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる



いま知っておきたい南海トラフ地震

└ 前回の発生から約 80 年が経過 ─┘

約 100 ～ 150 年間隔で繰り返し大規模地震が発生



出典：内閣府「南海トラフ地震 - その時の備え -」を加工して作成

奈良県の被害想定

令和7年3月31日に、国の調査による被害想定の見直しが公表されました。

被害の内容(約)	全国	うち奈良県
死者	29万8,000人	1,600人
負傷者	95万2,000人	1万9,000人
避難者 (発生から1週間後)	1,230万人	33万7,000人
全壊消失棟数	235万棟	4万4,000棟

地震は1度では終わらないかも

●1854年 安政東海地震 1854年 安政南海地震

マグニチュード **8.6** マグニチュード **8.7**

約 32 時間後

●1944年 昭和東南海地震 1946年 昭和南海地震

マグニチュード **8.2** マグニチュード **8.4**

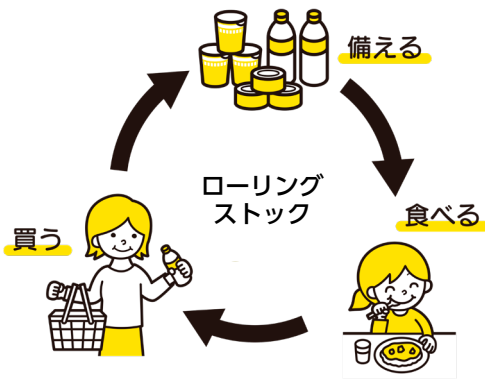
約 2 年後

地震に備えて、 今からできること

災害用物資の備蓄

災害用備蓄物資を備えておく
安心です。

災害用に水・食料を長期間備蓄
すると、賞味期限が切れてしまっ
たり、どこに保管しているか分
らなくなったりします。普段から
口にしている食べ物や飲み物を、
少し多めに買い置きして、古いも
のから使うようにする、ローリン
グストックという備蓄方法が手軽
です。



災害時の連絡手段の確認

発災時には電話が制限されてほ
んど使えなくなり、離れた家族
と連絡を取ることが難しくなりま
す。事前に家族で連絡手段につい
て話し合っておくことが重要で
す。また、発災時の連絡手段とし
て災害用伝言ダイヤルが利用でき
ます。

災害用伝言ダイヤルは体験利用
できる日もあります。使い方を確
認しながら試してみませんか。



災害用伝言ダイヤル

伝言の録音

171 > 1 > 被災した家の
電話番号 > 伝言
(30秒以内)

伝言の再生

171 > 2 > 被災した家の
電話番号 > 伝言
(30秒以内)

▶体験利用ができる日

- 毎月1・15日(24時間)
- 防災週間(8月30日9:00～9月5日17:00)
- 防災とボランティア週間
(1月15日9:00～1月21日17:00)
- 1月1～3日(24時間)

防災対策のきっかけに ナラ・シェイクアウト

7月9日㊤に、ナラ・シェイクアウト(奈良県いっせい地震行動訓練)が行われます。自宅・地域・職場などで身の安全を守る行動を実践し、防災対策のきっかけとする訓練です。地震発生時の安全確保行動・訓練の流れなどを事前に調べて参加してみましょう。詳細は奈良県防災統括室ホームページへ。

詳細はこちら▲



提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

自宅の安全対策

自分の住んでいる家が地震に耐えられるかどうかは、命を守るためにとても重要です。

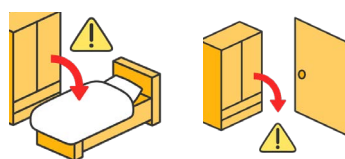
家を建てたのが昭和56年6月1日以降であれば新耐震基準となります。新耐震基準は、震度5強程度の地震であればほとんど損傷がなく、南海トラフ地震で想定されている震度6強程度の大地震でも倒壊・崩壊しないことを目安に作られています。自身の住む家がい

耐震基準	震度5強程度の地震	震度7までの地震
旧耐震基準 (～昭和56年5月31日)	 倒壊・崩壊しない	規定なし
新耐震基準 (昭和56年6月1日～)	 軽微なひび割れ程度	 倒壊・崩壊しない

つ建てられたか確認し、旧耐震基準で建てられている場合は耐震診断などを行いましょう。

家具は倒れるもの

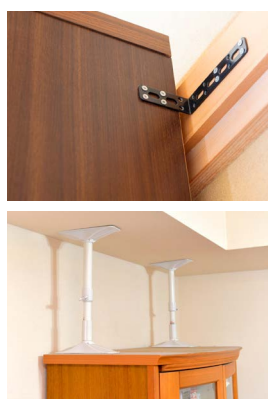
家の安全対策では、家具の配置なども重要です。阪神淡路大震災や新潟県中越地震などでは、倒れてきた家具の下敷きになって亡くなった人や、負傷した人が多数いました。家具などは必ず倒れてくるものとして対策することが重要です。



家具は倒れた場合に入出口や避難の動線を防がないことが重要です。

ように配置します。また、寝るときや、台所で家事をしているときなどに倒れても安全な場所に配置することも大切です。

配置に加え、倒れてこないよう対策をすることより安全です。家具を固定する金具・突っ張り棒は、ホームセンターなどに売っています。取り付けてみてください。



できることから始めましょう

南海トラフ地震は今後30年以内に高い確率で発生すると言われており、奈良県でも甚大な被害が想定されています。大規模災害時には公的支援がすぐに届かない場合も多く、発災時に自分や家族の命を守るためには「自助」の意識と備えが不可欠です。非常用品の備蓄・家族との安否確認方法の話し合い・自宅の安全確保と避難経路の確認など、日頃からできることを一つ一つ実行し、災害に備えましょう。

また、地域住民同士で助け合う「共助」もとても重要になります。顔の見える関係を日頃から築いておくことで、いざというときお互いを気にかけて、助け合うことができます。自治会や自主防災組織の活動に参加したり、防災訓練を通じて地域の課題を共有したりすることが、共助の第一歩です。自分の備えが整ったら、地域にも目を向け、支え合えるまちづくりを進めましょう。

旧耐震基準の診断・改修など住宅耐震化の補助制度

3つの補助制度があります。

- ①木造住宅の無料耐震診断
- ②木造住宅の耐震改修工事
- ③ブロック塀などの撤去工事

各補助金の詳細は、市ホームページへ。



▲①詳細はこちら



▲②詳細はこちら



▲③詳細はこちら

